

「認知症のくすり」

演者：須磨区薬剤師会理事 宮内智也

要約：

高齢社会の到来に伴い、認知症高齢者は急増しており、2025年には約470万人と試算されています。認知症は薬物治療、非薬物療法を組み合わせながら、地域で認知症の患者と家族を支えていくことが今後の課題となっています。なかでも薬剤師は、多職種と連携を図りながら、認知症を正しく理解し、適正な薬物療法に貢献することが今後、ますます求められています。認知症の治療では薬物療法とともに、非薬物療法や患者やその家族への対応も重要となります。

現在、抗認知症薬は4種類あり、症状に合わせて使い分けて治療されています。また認知機能が低下し幻覚や妄想などの症状が現れている認知症の患者さんは時に攻撃的な反応を示すことがあります。そういった周辺症状(BPSD)に使われる向精神薬も大切な治療薬です。

本講演では抗認知症薬・BPSD治療薬を用いる薬物療法を中心に話しをします。